

各地域（第2層）の取り組みについて

1 大津

地域支え合い協議会（平成28年12月設置）

昨年12月に生活支援を立ち上げた団体をオブザーバーでお呼びした。団体の事務局長より、発足のきっかけとその後の歩みについて話をいただき、現在の活動状況も併せて伺った。構成員からは、「このような活動を今後も地道に続けて欲しい」「中学校も地域貢献活動の勉強をしているので、ぜひ、声をかけてみたらどうか」等、意見交換の場となった。

そして、近所でお互い様の活動が広がってきていることを再確認し、他の町内の動きも全体で共有した。

2 追浜

地域支え合い協議会（平成29年2月設置）

アンケート作成について引き続き意見交換をしている。

「アンケート結果は、どこの地域も共通しているのではないか」

「手間と時間がかかる中、アンケートをとる必要があるのか」等の意見が出た。その中から、「あなただったら、どのようなことをお手伝い出来ますか？」という設問を加えたらどうか、との意見が挙がった。地域課題だけのアンケートではなく、「支え手」の発掘も視野に入れた内容にしていくことに対し、構成員同士、その内容で進めていくことで合致。

具体的なアンケートの内容については、小メンバーで原案を作成し、次回の会議で最終確認することとなった。

3 田浦

地域支え合い協議会（平成29年12月設置）

今後の取り組みについて、「地域活動集」「実態把握」「人材育成」3つのチームに分かれて小部会を作るか否か話し合われた。その中で、同時に3つからではなく、ひとつひとつ丁寧に活動を把握することを目的として、「地域活動集」から作成していく方向で一致。地域の人たちが、これを見ることで何か活用出来るきっかけになったら良いと期待を込めている。

4 浦賀

地域支え合い協議会（平成 30 年 5 月設置）

令和 2 年 2 月 5 日に活動報告会を開催する。お助け隊の活動報告と生活支援コーディネーターによる地域情報・支援内容を通じて、浦賀の支え合いの状況を共有する。活動報告会を開くことで、お助け隊が全ての町内で立ち上がることを狙う。

来年度、地域内で生活支援団体が 2 団体立ち上げる見込みであることを情報共有している。その外には、通いの場を充実させることで生活支援の接点とすることを考えている。ふれあい・いきいきサロンとの位置づけや関係について悩んでいる。

5 北下浦

地域支え合い協議会（平成 31 年 3 月設置）

どのような支え合いがあるのかを把握することで、今後の進め方を探っている。生活支援を中心にアンケート調査を実施する。3 月 5 日（木）を提出期限とし、町内会・自治会、老人会、地区ボランティアセンター、生活支援団体等、広く聞き取る。年度内に集計する予定である。

民生委員と社会福祉推進委員地区代表にアンケートへの協力を依頼する。地域全体を網羅はできないが、つながりの場を提供することに意味があるとの議論があった。

なお、通いの場については地域運営協議会のアンケートで調査する。

6 久里浜

地域支え合い協議会（平成 31 年 4 月設置）

「久里浜地域全体で、支え合いについて考える人をたくさんつくっていきましょう」をモットーに来年度講演会を開催予定である。

メンバーの中で、歴史をよく知っている方が講師になり、昔あった久里浜地域の支え合いの歴史を紐解きながら、隣近所で助け合う大切さを伝えていくことを検討している。

地域の自慢大会や地域とつながっていて良かった事例など入れたらどうか、等企画内容を検討している。